

新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金効果検証 事業一覧【令和5年度実施計画分】

実施計画No	区分	事業名	事業概要	事業始期	事業終期	事業実績							担当部局		
						総事業費(千円)	交付対象経費(千円)	成果目標	計画	実績	達成率	取組実績	取組の効果		
13	重	いばらきエネルギー転換事業	コロナ禍において原油価格等が高騰するなか、今後更に、電気料金やその他の燃料費が高騰するおそれがあることから、全ての企業を対象に、事業所にて太陽光発電設備を導入し、電力の自家消費を促すことで、電気料金高騰による負担軽減を図り、県内企業におけるエネルギーの転換を図るもの。	R5. 6. 22	R6. 3. 29	1,586,828	1,586,828	○太陽光発電設備導入した太陽光発電設備の発電容量：14,935kW	14,935kW	13,497kW	90%	○コロナ禍において原油価格等が高騰するなか、再生可能エネルギーの導入を促進し、事業者の負担軽減及び県内企業におけるエネルギーの転換を図り、本県の温湿効果ガスの排出削減を行った。	○太陽光発電の導入促進により、物価高騰の影響を受けた事業者を支援することができた。	県民	環境政策課
14	重	医療機関等物価高騰対策支援事業	コロナ禍においてエネルギー価格の高騰により増大する医療機関等の負担を軽減し、健全な経営の維持を図るため、医療機関調査者等に対して支援を行う。	R5. 7. 28	R6. 2. 13	513,310	513,304	支援金の支給件数：6,518件	6,518件	3,364件	52%	申請のあった医療機関等3,364事業者に対し、支援金を支給した。	支援金を支給することで、エネルギー価格の高騰による医療機関等の負担を軽減し、健全な経営の維持を図ることができた。	保健	保健政策課
15	重	医療関係職種養成所物価高騰対策支援事業	コロナ禍における施設運営に困難が増す中、物価高騰の影響により、光熱水費等の負担が増加している医療関係職種養成所に対し、支援金を支給することで負担軽減を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	4,462	4,462	物価高騰の影響により、光熱水費等の負担を軽減する医療関係職種養成所数：16校21課程	16校21課程	15校20課程	94%	○物価高騰の影響により、光熱水費等の負担が増加している医療関係職種養成所に対し、支援金を支給 ・交付実績件数：15校20課程 ・交付実績金額：4,462千円	医療関係職種養成所の光熱費の支援を行い、各養成所の負担軽減を図ることができた。	保健	医療人材課
16	重	保護施設物価高騰対策支援事業	コロナ禍においてエネルギー価格の高騰により増大する保護施設の負担を軽減し、健全な経営の維持を図るための支援を行う。	R5. 6. 1	R6. 3. 31	9,443	9,443	支援金を支給する施設数 保護施設：5カ所	5カ所	5カ所	100%	救援施設5施設に対し、光熱水費及び食材費を支給した。	物価高騰下において、県内保護施設の健全な施設運営を図ることができた。	福祉	福祉・人材指導課
17	重	介護施設等物価高騰対策支援事業	コロナ禍においてエネルギー価格の高騰により増大する高齢者施設の負担を軽減し、健全な経営の維持を図るための支援を行う。	R5. 7. 28	R6. 2. 13	433,779	433,770	支援金を支給する施設数 高齢者施設：4,121カ所	4,121カ所	2,461カ所	60%	○光熱費の値上げの影響を受ける事業者に対し支援金を支給した。 ・交付実績施設数：2,461カ所 ・交付実績金額：393,329,000円	支援金の支給により、介護施設等の安定的なサービス提供に寄与した。	福祉	長寿福祉課
18	重	障害者施設物価高騰対策支援事業	コロナ禍においてエネルギー価格の高騰により増大する障害者施設の負担を軽減し、健全な経営の維持を図るための支援を行う。	R5. 6. 15	R5. 10. 26	82,346	82,346	支援金を支給する施設数 障害者施設：2,915カ所	2,915カ所	1,834カ所	63%	申請のあった障害者施設1834事業者に対し、支援金を支給した。	支援金を支給することで、エネルギー価格の高騰による医療機関等の負担を軽減し、健全な経営の維持を図ることができた。	福祉	障害福祉課
19	重	幼児教育・保育施設物価高騰対策支援事業	コロナ禍においてエネルギー価格の高騰により増大する幼児教育・保育施設の負担を軽減し、健全な経営の維持を図るために支援を行う。	R5. 7. 28	R6. 2. 13	63,280	63,280	支援金を支給する施設数 幼児教育・保育施設：1,033施設	1,033施設	725施設	70%	○光熱費及び食材料費の値上げの影響を受ける事業者に対し支援金を支給した。 ・交付実績施設数：725施設 ・交付実績金額：63,280,000円	支援金の支給により、幼児教育・保育施設の安定的なサービス提供に寄与した。	福祉	子ども未来課
20	重	児童養護施設等物価高騰対策支援事業	コロナ禍においてエネルギー価格の高騰により増大する児童養護施設の負担を軽減し、健全な経営の維持を図るために支援を行う。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	23,216	23,216	支援金を支給する施設数 ・(R5. 4月～R5. 9月) 児童養護施設等：37カ所	37カ所	37カ所	100%	○光熱費について、光熱水費×物価上昇率×1/2(補助率)を支援金として給付した。 ○食事について、児童1人当たり9,000円を給付した。	支援金を給付することで、光熱水費・食材料費の高騰による児童養護施設等の負担を軽減することができた。	福祉	青少年家庭課
21	補	子ども・子育て支援交付金	<新型コロナウイルス感染症対策支援事業> 現情勢下においても引き続き、幼稚園等における感染症対策の徹底を図りながら事業を継続的に実施していく。(マスクの着用・手洗い等の手指衛生等)ために必要な経費のほか、衛生用品の購入等の経費及び感染症対策のための簡単な改修にかかる経費について補助を行う。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	3,982	3,982	新型コロナウイルス感染症対策支援事業実施予定数 32市町村	32市町村	6市町村	19%	○感染症対策に係る備品の購入費及び簡易的な改修にかかる費用を交付した。 ・交付市町村数：6市町村 ・交付実績金額：3,982千円	新型コロナウイルス感染症が発生した場合等に、職員が感染症対策を図りながら事業を継続していくことができた。	福祉	少子化対策課
22	補	母子保健衛生費補助金	(新型コロナウイルス感染症の流行下における妊産婦総合対策事業) <妊婦のPCR検査費用補助> 新型コロナウイルスに対して、強い不安を抱えている妊婦等が安心して検査し、産前産後を通じて過ごすことができるよう、新型コロナウイルスの検査と併せての新しい新型コロナウイルスの検査に係る費用に対して補助する。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	9,171	4,586	妊婦PCR検査費用補助人件数 4,612人(令和5年度末)	4,512人	1,019人	23%	新型コロナウイルスの症状がない妊婦への新型コロナウイルスの検査に係る費用に対して補助を行った。	新型コロナウイルスに対して、強い不安を抱えている妊婦等が安心して出産できる体制を整備することができた。	福祉	少子化対策課
23	補	教育支援体制整備事業費交付金	(幼稚園の感染症対策支援事業) 現情勢下においても引き続き、幼稚園等において感染者等が発生した場合に、新型コロナウイルス感染症対策の徹底(蔓延防止から業務を継続するため、保健衛生用品の購入等及び感染症対策を徹底するために必要な消耗品の購入等)にかかる費用を継続するため、保健衛生用品の購入等及び感染症対策を徹底するために必要な消耗品の購入等に対して補助する。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	15,548	7,668	私立幼稚園及び幼稚園型認定こども園における新型コロナウイルス感染症対策の実施 対象施設数：111園	111園	47園	42%	○私立幼稚園(幼稚園型認定こども園も含む。)に対して、新型コロナウイルス感染対策に係る保健衛生用品等の経費について、総事業費の1/2の補助を行った。 ・補助実績園数：47園 ・総事業費：15,548千円 ・対象経費：15,329千円 ・補助実績額：7,668千円	幼稚園園内の感染症対策に係る保健衛生用品等の経費を補助することにより、アルコール消毒等の必要な感染症対策を実施し、感染防止が図られた。	福祉	子ども未来課
24	補	児童福祉事業対策費等補助金	(新型コロナウイルス感染拡大防止を図る事業) 現情勢下においても引き続き、児童福祉施設等において感染拡大が発生した場合に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図りながら、業務を継続実施していくため、衛生用品の購入や職員の手当等を支援することにより環境改善を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	3,123	1,562	補助金を支給する施設等 児童養護施設：37カ所 里親：104組	37カ所	8カ所	22%	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図りながら、業務を継続実施していくため、衛生用品の購入や職員の手当等を支援したことにより環境改善を図ることができた。	衛生用品の購入や感染症拡大防止のための職員手当等を支援することで、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図ることができた。	福祉	青少年家庭課

実施 計画 No	区分	事業名	事業概要	事業 始期	事業 終期	事業実績							担当部局	
						総事業費 (千円)	交付対象経費 (千円)	成果目標	計画	実績	達成率	取組実績		
25	単	台湾いばらき経済交流促進事業	新型コロナウイルスにより観光事業者等が大きな影響を受けた中、インバウンド需要の復帰を図るため地元商旅ぐるの会と連携して、昨年度に実施したブロモーションにより興味を持った旅行・購買意欲を、実際の来県による観光消費や県産品の購入につなげる取り組みを実施し、本県への誘客促進や県産品の輸出拡大を目指す。	R5.4.1	R6.3.31	97,441	97,441	(県産品販路開拓ビジネスマッチングについて) ・現地バイヤー等とのビジネス会議件数50件、成約件数30件、成約額1,700万円 ・本県農産物の輸出については、本県農機械の輸出を行うことにより必要な輸出手続等を確認できた。 ○(誘客促進) ・本県を周遊する旅行商品の造成	50件	191件	382%	○現地バイヤー等とのビジネスマッチングにより県産品の購入につなげる取り組みを実施し、県産品の輸出拡大を図った。 ○テスコ販売等における県産品の現地プロモーションにより県産品に対する認知度を向上させることができた。 ○(誘客促進)旅行商品のデータ一覧化、インバウンド向けイベントの集客(約500人)を通して、茨城県のPRや実際の誘客に繋げることができた。大洗水族館において台湾人旅行者等を対象としたインバウンド向けイベントを開催した。	○新型コロナウイルスにより県内中小企業が大きな影響を受ける中、現地プロモーションやビジネスマッチングにより県産品の購入につなげる取り組みを実施し、県産品の輸出拡大を図った。 ○テスコ販売等における県産品の現地プロモーションにより県産品に対する認知度を向上させることができた。 ○(誘客促進)旅行商品のデータ一覧化、インバウンド向けイベントの集客(約500人)を通して、茨城県のPRや実際の誘客に繋げることができた。令和5年度の茨城県を周遊するツアーニュースは、2019年比約99%まで回復した。	観光客団、加工食品販売チーム、農産物販売課
									30件	40件	133%			
									1,700万円	5,292万円	311%			
26	重	稼げる地域観光支援事業	コロナ禍における物価高騰等の影響を受ける宿泊事業者等を支援するため、アフターコロナにおける観光需要を効果的に観光地へ取り込み、地域の「稼ぐ力」を向上させるため、インバウンド向けコンテンツの新たな造成や国内向けコンテンツの転換・高付加価値化等を支援する。	R5.6.27	R6.10.7	542,550	542,550	県内宿泊施設に宿泊した外国人の延べ宿泊者数:199,100人	199,100人	237,960人	#VALUE!	アフターコロナにおける観光需要を効果的に観光地へ取り込み、地域の「稼ぐ力」を向上させるため、本県観光の「稼ぐ力」となり得るインバウンド向けコンテンツの新たな造成や国内向けコンテンツの転換・高付加価値化等を支援した。 ・交付実績:13件 うち環境整備型: 5件 コンテンツ造成型: 8件 ・交付実績金額: 408,443千円 うち環境整備型: 248,752千円 コンテンツ造成型: 159,691千円	造成したコンテンツの中には、募集定員を大幅に超えたものや多数の複数アカウントに取り上げられたものがあり、一定の成果を出した。	観光戦略課
27	重	特別高圧受電施設等電気料金支援事業	コロナ禍からの回復途上において電気料金が高騰しているため、県の電気料金支援の対象外となる特別高圧受電施設(商業施設等の入居テナント含む)等に対し、電気料金の一部を支援を実施し、コロナ禍からの回復を支援する。	R5.7.20	R6.3.26	596,125	596,125	特別高圧で受電する中小企業等:約900事業者(1,715,000千円の電気料金支援)	約900事業者	131事業者	15%	工場などの直接受電事業者 15事業所 大規模商業施設等のテナント入居する間接受電事業者 113事業所 医療機関 3施設 計 131事業所 に対し 2024年4月～9月分の電力使用量に応じて合計546,816,100円の支援金の支給を行った。 なお、事業者数については大型商業施設等にテナント入居する事業者からの申請が想定よりも大幅に少なかった。	国の電気料金支援の対象外である特別高圧契約で受電する中小企業等を支援することにより、電気料金高騰による影響を緩和することができた。	産業 中小企業課
28	重	ITパスポート等取得支援事業	コロナ禍及び物価高騰からの経済回復を確実なものとし、賃上げや労働者性の向上を図るため、後継員のデジタルリテラシー獲得に取り組む企業等を支援し、企業のリスキリング環境の構築を推進する。	R5.6.22	R6.3.31	1,739	1,739	ITパスポート等の合格者1,642人	1,642人	24人	1%	○従業員のデジタルリテラシー獲得に取り組む中小企業等の支援のため、ITパスポート取得のための受験料または講習料について補助金を交付した。 ・ITパスポート等の合格者数: 24件	○県内合格者が昨年度に比べ大きく減少しており、補助金の申請数も伸びなかった。 ○業務実績の専門資格やスキルが優先される傾向が顕著であり、デジタルスキルの有用性への理解が思うほど進まなかった。	産業 産業人材育成課
29	単	アンモニアサプライチェーン構築実行可能性調査事業	コロナ禍からの経済回復を確実なものとし、社会経済活動に不可欠なエネルギーの構造転換を図るため、脱炭素燃料として比較的の早い社会実装が期待されるアンモニアのサプライチェーン構築に向けた事業実行可能性調査を実施する。	R5.8.30	R6.2.29	19,430	19,430	アンモニアサプライチェーン基盤・設備整備に係る調査実施数1件	1件	1件	100%	○本県臨海部をハブとしたアンモニア広域供給に向けて、不可欠な初期調査を実施。 ・アンモニアの国内輸送方法に関する検討 ・鹿島地区を起点とした最適な輸送方法に関する検討	広域アンモニアサプライチェーン構築に向けた輸送方法、安全管理及び運営体制・方法、課題等に関する基礎情報収集することができた。	産業 科学技術振興課
30	単	いばらき宇宙ビジネス創造拠点事業	宇宙ビジネス産業は2040年の市場規模が現在の約3倍の100兆円規模になると予想される急成長分野である。県内企業に対して、今後より大きな競争環境となる宇宙ビジネスの新規参入を加速するため、県内に、特に、県内大に向けた支援を行って、県内産業の活性化・拡大をより効果的かつ効率的に実現し、物価高騰等によるコロナウイルスの影響を受けた県内企業の賃上げや労働者性の改善を図る。	R5.4.1	R6.3.31	44,249	42,851	①宇宙関連サービスの提供又は宇宙機器・部品の納品による売り上げを得た宇宙ベンチャー・企業数: 2社 ②県内中小企業・ベンチャー等が宇宙関連サービスの提供や宇宙機器・部品の納品等による受注件数: 10件	2社	3社	150%	○以下の取組により、宇宙ベンチャーの創出・誘致や県内企業の宇宙ビジネスへの参入を推進。 ・いばらきスペースサポートセンター(相談拠点)の設置・運営 ・専任ディレクター(2名)による伴走型支援218件 ・いばらき宇宙ビジネス創造コンソーシアム会合(セミナー)の開催 38回255件参加 ・ピッチコンテストの開催(フレイメント、ブラン作り支援セミナー3回、ピッチコンテスト開催)延189名参加 ・宇宙関連企業等に対する財政支援(新製品開発等)10件 ・宇宙関連事業会社出展支援 6回、延10社出展 ・県産技術開拓インバーションセンターによる開発支援等	○いばらきスペースサポートセンターのJAXAへの両込等により、県内企業が宇宙関連の受注・売上げを得る得以し、このうちの3社は新たに宇宙関連の売上げを得ることができた。 ○また、県内企業3社(新たに売上げを得た2社含む)が宇宙ビジネスに新規に取り組むとともに、県外企業3社が新規に県内拠点を設置した。	産業 科学技術振興課
31	単	「いばらきの養殖産業」創出事業	コロナ禍からの経済回復を確実なものとするため、天然資源に依存しない養殖産業の創出に必要な養殖技術開発や養殖参入支援を行う。	R5.4.1	R6.3.31	97,921	97,921	新規養殖参入事業者: 2者以上	2者以上	7者	350%	○養殖参入に係る経費等を補助した。 ・交付実績件数: 1件 ・交付実績金額: 6,654千円 ○マサバブドウコビ等の養殖技術開発を行った。 ○企業等からの養殖技術相談の対応や説明活動等を実施した。	天然資源に依存しない養殖産業の創出を図ることができた。	農林 水産振興課
32	重	乾牧草価格高騰緩和対策事業	輸入牧草価格高騰による生産者負担の軽減を図り、物価高騰やコロナ禍による経営への影響を緩和する。	R5.7.18	R6.3.29	505,886	505,886	対象農家76戸全てに補助金を交付	760戸	578戸	76%	○基本支援 ・57戸53,972頭(乳牛17,420頭、牛肉36,552頭)に対し支援し、農家負担の軽減に寄与した。	○事前着手による迅速な給付金の交付により、新型コロナウイルス感染症の影響による消費減退で畜産物価格が低下する畜産農家を支援することができた。 ○輸入飼料から畜産物価格の転換に寄与した。	農林 畜産課
33	重	飼料国内自給化緊急対策事業	輸入飼料から畜産物への転換を推進し、物価高騰やコロナ禍による影響を受けにくい足場の強い経営体への転換を図る。	R5.7.13	R6.3.29	98,099	98,099	事業実施者の飼料生産面積又は食品残渣利用割合10%以上拡大	10%以上拡大	10%	100%	○事業実施数延べ33件 ・機械導入補助 25件 ・飼料料金面積の拡大支援 8件 ・食虫疾患飼料化検証経費補助 2件	○輸入飼料から畜産物への転換に寄与した。物価高騰の影響を受けにくい畜産経営体の育成につながった。 ○新型コロナウイルス感染症の影響により消費減退で畜産物価格が低下する畜産農家を支援することができた。	農林 畜産課

実施計画No	区分	事業名	事業概要	事業始期	事業終期	事業実績							担当部局		
						総事業費(千円)	交付対象経費(千円)	成果目標	計画	実績	達成率	取組実績	取組の効果		
34	重	儲かる産地支援事業	コロナ禍における原価価格・物価高騰に対応し、輸入に依存する米・大豆・小麦からの代替として需要拡大が見込まれる米粉用米の生産拡大に必要な機械・施設等の整備を支援する。	R5. 5. 9	R6. 6. 26	257,208	101,777	米、大豆、米粉用米の生産拡大に資する機械、施設の導入件数:22件	22件	17件	77%	米、大豆、米粉用米の生産拡大に必要な機械や施設等の整備を行う事業者に対する補助金を交付した。 ・光選別機2台、色彩選別機2台 ・コンバイン3台 ・GPSトラクター3台、等 <実績> ・交付実績件数：17件 ・総実績額：257,208千円 ・補助金額：101,777千円	コンバイン・トラクタなどの機械や施設等の整備により、米、大豆、米粉用米の生産拡大を図ることができた。	農林	産地振興課
35	単	いばらきオーガニックステップアップ事業	コロナ禍における肥料等資材価格高騰に対応するため、化学肥料を使用しない有機農業への転換・生産拡大と有機農業への付加価値向上を推進することで、明確な知見が得られない有機農産物の内容成分の特長について、調査研究を実施し、需要拡大につなげる。	R5. 9. 20	R6. 3. 31	8,892	8,892	県内の有機JAS認証取得面積（R2年283ha）：6%（約18ha）向上	6%向上	23%向上	383%	○7品目の一般農産物と有機農産物について、その抗酸化物質や抗酸化能に着目した分析を実施。全ての品目で対応する項目は確認されなかったが、3品目（レタス・スギ・ニンジン）の有機栽培でカラテノイド系の抗酸化物質濃度や抗酸化能が優位に高い結果を得た。	○調査の結果、有機栽培で抗酸化物質濃度や抗酸化能が有意に高くなった品目を確認できた。栽培条件等による違いを調査するため、県立農業試験研究室へ依頼した。 引き続き、試験研究部門で、本事業の結果を踏まえた調査研究を継続して行う。 R5年3月31日時点では茨城県の有機JAS認証取得面積は134haとなり、R2年比で66ha増加し、R4年から28ha増加した。	農林	農業技術課
36	重	学校給食等物価高騰対策事業	コロナ禍における物価高騰の影響により、県立学校で実施されている学校給食等における食費が高騰していることから、県立保護者が負担することとなる学校給食のうら食費の割合分の補助を実施する。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	20,204	20,204	給食費負担軽減を実施する県立学校数：47校	47校	30校	64%	○物価高騰に伴う学校給食における食費の増額分について、県立学校（給食会計）へ補助金の交付 ・交付実績件数：30校 ・交付実績額：20,204千円	本来保護者が負担することとなる学校給食費のうち、物価高騰に伴う食費の増額分について、県立学校（給食会計）が負担することにより保護者の負担軽減を図ることができた。	教育	保健体育課
37	重	児童養護施設等物価高騰対策支援事業（里親）	コロナ禍においてエネルギー価格の高騰により増大する里親の負担を軽減するための支援を行う。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	3,989	3,989	支援金を支給する対象里親：150組	150組	108組	72%	○1組（世帯）につき16,000円を給付した。 ○複数の児童の委託を受ける場合、2人目からの児童1人につき、5,000円を給付した。	支援金を給付することで、光熱水費・食料費の高騰による里親の負担を軽減することができた。	福祉	青少年家庭課
38	単	過疎地域インターン促進事業	コロナ禍や原油価格・物価高騰の影響を受けた過疎地域の中企業等を対象に、都市部学生の長期インターン活用により、新たなチャレンジや事業活動の活性化を図り、賃上げにつながる経営革新や人材投資等を促進する。	R5. 10. 6	R6. 3. 31	15,805	15,805	インターン実施事業者数：15社	15社	15社	100%	○過疎地域を含む11市町の中小企業等15社に都市部からの学生29名を長期インターンとして呼び込むことができた。 【対象企業】 常陸太田市、潮来市、常陸大宮市、鶴ケ島市、かすみがうら市、川越市、行方市、城里町、大子町、河内町、利根町	コロナ禍や原油価格・物価高騰の影響を受けた過疎地域の中企業等に対し、都市部学生が長期インターンを行なうことで、新商品開発など事業活動の活性化を図り、人材投資等の促進につなげることができた。	政策	計画推進課
39	単	茨城ご当地グルメ絶選挙開催準備事業	コロナ禍におけるエネルギー価格高騰等の影響を受けている飲食店を含む観光産業を支援するため、市町村等への「ご当地グルメ」開発の支援及び本県の魅力的な食文化の情報発信を行うことにより、食の観光資源の発掘及び魅力を通した地域振興を図る。	R5. 11. 1	R6. 3. 31	10,274	10,274	ご当地グルメ開発を支援する市町村数：6市町村	6市町村	8市町村	133%	○市町村等への「ご当地グルメ」開発の支援及び本県の魅力的な食文化の情報発信を行うことにより、食の観光資源の発掘及び魅力を通した地域振興を図る。 ○コロナ禍におけるエネルギー価格高騰等の影響を受けている飲食店を含む観光産業を支援することができる。	○市町村等への「ご当地グルメ」開発の支援及び本県の魅力的な食文化の情報発信を行うことにより、食の観光資源の発掘及び魅力を通した地域振興を図る。 ○コロナ禍におけるエネルギー価格高騰等の影響を受けている飲食店を含む観光産業を支援することができる。	政策	地域振興課
40	重	干しいも資源循環モデル形成支援事業	コロナ禍における物価の高騰に対応し、畜産農家や耕種農家の肥料高騰の影響を緩和するとともに、食料ロスを削減するため、本県特産の干しいもの製造工程で発生する未利活用部材のリサイクル活用をして有効利用する実事業者を支援することにより、本県独自の大規模資源循環モデルの形成を図る。	R5. 10. 11	R6. 3. 29	75,556	75,556	干しいも未利用部分を肥料又は肥料に加工するための整備件数：2件	2件	2件	100%	○コロナ禍における物価の高騰に対応し、畜産農家や耕種農家の肥料高騰の影響を緩和するとともに、食料ロスを削減するため、本県特産の干しいもの製造工程で発生する未利活用部材を加工し、肥料等のリサイクル資源として有効利用部分を実事業者に支援することにより、本県独自の大規模資源循環モデルの形成を図った。 ・交付実績件数：2件（肥料化1、肥料化1） ・交付実績額：75,556千円	○事業者の肥料化機械等の導入促進により、干しいも未利用部分の大規模肥料化が可能となつた。 ○食品の削減、県内農業の県産肥料の利活用拡大による肥料高騰の影響緩和、本県特産の干しいものブランドイメージの向上を図ね備えた、本県独自の大規模資源循環モデルの形成を図ることができた。	県民	環境政策課
41	単	環境保全施設資金融資対策事業（利子補給）	コロナ禍において原価価格等が高騰するなか、今後更に、電気料金やその他の燃料費が高騰するおそれがあることから、事業者にて太陽光発電設備を導入し、電力の自家消費を促進することにより、電気料金高騰による負担軽減を図り、県内農業に向けたエネルギー・資源開拓設備導入促進事業（エネルギー・資源開拓促進事業）に活用する事業者が、県の既存の融資制度を活用した場合に生じる利子分を、県が補助する。	R5. 6. 22	R6. 3. 31	695	695	利子補給額 4,883千円	4,883千円	695千円	14%	○いばらきエネルギー・シフト促進事業補助金を活用して太陽光発電設備を設置する事業者に対し利子補給を実施した。 ・交付実績件数：9件 ・交付実績額：695,176円	いばらきエネルギー・シフト促進事業補助金を活用して太陽光発電設備を設置する事業者に対し利子補給を実施することで、事業者側の負担を軽減し、県内事業者のエネルギーの転換を促進することができた。	県民	環境政策課
42	補	障害者総合支援事業費補助金	新型コロナウイルス感染症に係る障害福祉サービス事業所等に対するサービス継続支援事業、新型コロナウイルス感染症の感染者が発生した事業所に対する、サービス継続のための補助金	R5. 4. 1	R6. 3. 31	17,858	5,953	新型コロナウイルス感染症対応によるかかり増し経費補助金額 311事業所	311事業所	38事業所	12%	○新型コロナウイルス感染症の感染者が出た事業者に対し、経費を交付した。	施設内に感染が発生した際の感染対策を徹底することで、施設利用者の安全確保の確実及び障害福祉サービスの提供を図った。	福祉	障害福祉課
43	重	化学肥料削減緊急支援事業	コロナ禍において肥料価格の高騰が続く中、化学肥料の削減に取り組む農業者に対し、価格高騰分の一一定割合を補填することで、肥料削減に向けた取組を支援する。	R5. 9. 1	R6. 3. 29	273,636	273,631	堆積金交付の想定される対象農業者数：13,000名 【内訳】 既に肥料価格高騰対策事業（国事業） 参加者：12,000名 今回新たに化学肥料削減に取り組む農業者：1,000名	13,000名	2,824名	22%	○肥料価格高騰による農業経営への影響を緩和すべく化学肥料削減に向けた取組を実施する農業者に対して、堆積金交付を実施した。 ・交付実績件数：2,824件 ・支援金交付額：255,670,100円	化学肥料の使用量2割減に向けた取組を実施する農業者に対して、支援金を交付することで、肥料価格高騰による農業経営への影響緩和を図ることにも、適正な施肥による化学肥料の減量を推進した。	農林	農業政策課
44	単	メロン産地新市場開拓チャレンジ事業	コロナ禍からの経済回復及び肥料高騰の影響を受ける生産農家への支援のため、メロンの譲渡用農業コストが高まる年次に出荷新たにチャレンジするとともに、海外マーケットに対応した残留農業基準クリア化や流通販売時のロス率低減のための取り組みを産地と共に実施する。	R5. 11. 1	R6. 3. 31	7,558	7,558	メロン農家1戸当の生産農業所得 674万円	674万円	807万円	120%	○年末の譲答用に適したメロンの技術実証を行い、今後の可育性を検討した。 ○また、輸出用の基準等を作成するとともに、輸出先の求めた残留農業基準クリアする防除体系を検討した。	○年次末の譲答用は生産者の所得向上に繋がることから、引き続き生産を行い、安定生産技術を検討することとなった。 ○また、輸出用の基準等を作成するとともに、輸出先の求めた残留農業基準クリアする防除体系を検討した。	農林	産地振興課
45	単	干しいも残渣養殖飼料化検証事業	飼料コスト高騰による影響を緩和し、コロナ禍からの経済回復を確保なものとするため、養殖用飼料コストの削減に資する干しいも残渣粉を提せんした飼料の利用可能性を検証する。	R5. 9. 26	R6. 3. 31	8,821	8,821	干しいも飼料の活用可能魚種：1種以上	1種以上	3種	300%	干しいも残渣粉を混ぜ込んだ飼料の給餌試験等を行なった。3魚種が生存率に問題ないことを確認した。	干しいも残渣粉を混ぜ込んだ飼料の利用可能性を確認することができた。	農林	水産振興課

実施計画No	区分	事業名	事業概要	事業始期	事業終期	事業実績							担当部署	
						総事業費(千円)	交付対象経費(千円)	成果目標	計画	実績	達成率	取組実績	取組の効果	
46	単	県立学校先端技術活用教育推進事業(更新分)	次の感染症危機への備えとして、コロナ禍における感染拡大防止のための休校措置の際に学習環境を確保するため、動作不具合が発生しているGIGスクール構想に基づく一人一台端末の更新整備を実施する。	R5.10.6	R6.3.21	14,465	14,465	一人一台端末の更新整備 310台	310台	310台	100%	○県立中学校において一人一台端末を整備し、5学校に配備した。 ・一人一台端末 310台	ICT環境を整備することで、生徒の学びの機会を保証することができるとともに、生徒一人一人の情報活用能力を高め、個別最適化された学びや遠隔教育の充実が図られた。	教育 教育改革課
47	単	環境保全施設資金融資対策事業(利子補給、後年負担分)	コロナ禍において原油価格等が高騰するなか、今後更に、電気料金やその他の燃料費が高騰するおそれがあることから、事業者にて太陽光発電設備を導入し、電力の自家消費を促すことでより、電気料金高騰による負担軽減を図り、県内事業者によるエネルギーの供給の場を図る。いばらきエネルギーインフラ促進事業を活用する事業者へ、県の既存の融資制度を活用した場合に生じる利子分を、県が補給する。	R5.4.1	R6.3.31	18,715	18,715	利子補給額 18,715千円	18,715千円	18,715千円	100%	基金積立金 (R6~R10分) : 18,715千円	いばらきエネルギーインフラ促進事業補助金を活用して太陽光発電設備を設置する事業者に対する利子補給実施により後年負担分について、基金に積立てをすることと、事業者側の負担を軽減し、県内事業のエネルギーの転換を促進することができた。	県民 環境政策課
48	単	合同庁舎管理事業	現情勢下においても引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、合同庁舎で使用する消毒液等を購入する。	R5.4.1	R6.3.31	230	230	消毒液 (309L) 、石鹼 (ソーダ) 40kg、ハンドソープ (16.8L) 、使い捨て手袋 (130組) 等を購入し、9合庁舎の感染拡大を防止する。	9施設	7施設	78%	○感染症対策に係る消耗品を購入し、7施設 (合同庁舎) に配備した。 ・購入額 230千円	消毒液や石鹼等を配備し、各施設内の感染防止対策を徹底することで、施設利用者の安全安心の確保を図った。	総務 管財課
49	単	県庁舎維持管理事業	現情勢下においても引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、県庁舎の消毒作業の実施及び消毒液等を購入する。	R5.4.1	R6.3.31	12,076	12,076	県庁会行政棟・議会棟の清掃業務委託において、共用部の消毒作業等 (トイレ洗面台、エレベータ換気部、エスカレータ手すり等) を実施する。 ・石鹼 (300kg) 、石鹼 (360L) 、便座シート (180,000枚) 、ペーパータオル (182,000枚) 、使い捨て手袋 (1,000枚) 等を購入し、県庁舎の感染拡大を防止する。	300kg 360L 180,000枚 182,000枚 1,000枚	0kg 720L 340,000枚 294,000枚 0枚	0% 200% 189% 162% 0%	○行政棟の清掃業務委託を行なう3契約において共用部の消毒作業等を実施した。 ・委託合計総額 44,374,000円 うち共用部消毒分 11,080,000円 ○県庁舎で使用する液体石鹼、便座シートなどの消耗品費を購入した。 ・石鹼 720L 便座シート 340,000枚 ペーパータオル 294,000枚 【購入額】 ・R5年6月購入 362,320円 ・R5年9月購入 277,200円 ・R6年2月購入 236,352円 ・R6年4月購入 129,574円 計 996,372円	県庁会清掃業務委託における消毒作業の実施や感染症対策に資する消耗品を適宜活用することで、県庁舎内の新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を徹底し。利用者の安心の確保を図った。	総務 管財課
50	単	国際化・多文化共生社会推進事業	コロナ禍における物価高騰の影響により生活に困窮するウクライナ避難民の生活支援のために日本語学習費用等を支援する。	R5.4.1	R6.3.31	753	753	ウクライナからの避難民に対する生活支援件数: 10件	10件	3件	30%	○行政手続き等の生活支援として、ウクライナ避難民からの申請に応じて、公益財団法人茨城県国際交流協会に登録されている多文化共生サポートを派遣した。 ・翻訳 2件 ・通訳 1件	行政手続き等を実施することで、ウクライナ避難民の本県における生活を支援することでできた。	県民 女性活躍・県民協働課
51	単	特殊勤務手当(保健衛生業務)	ウイズコロナ下での感染症対応への強化を目的として、新型コロナウイルス感染症対策に従事した職員に対し、特殊勤務手当を支給する。5類移行後においても、保健所等における高齢者対応のクラスター対応や県立病院の入院患者が感染した場合など、直接感染者に接する作業に従事する場合に限って、令和6年3月末までの間、支給を行う。	R5.4.1	R6.3.31	373	373	実績に応じて、手当を支給する。 支給目標: 12,882千円	12,882千円	373千円	3%	○新型コロナウイルス感染症対策に従事した職員に対する特殊勤務手当の支給 支給実績件数: 179件 支給実績額: 373千円	新型コロナウイルス感染症対策に従事した職員に対する特殊勤務手当の支給実績件数: 179件 支給実績額: 373千円	保健 保健政策課
52	単	感染症予防医療法施行事業	5類感染症への段階的移行期間において、新型コロナウイルス感染症に対応できるよう、医療・検査の体制継続に取り組む。	R5.4.1	R6.3.31	99,442	98,683	【新型コロナ感染症対策協議会委員報酬等】 各種協議会を含めて年間9回程度会議を開催し、県感染症予防計画等の各種計画の策定等について協議を行なう。	年間9回程度	年間9回	100%	○協議会を開催し、新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえて、県感染症予防計画等の各種計画を策定した。 ・年間9回開催	各種計画を策定することにより、新興感染症発生・蔓延延滞に備えた医療提供体制の整備に努めることができた。	保健 感染症対策課
53	単	新型コロナウイルス感染症医療連携システム運営事業	5類感染症への段階的移行を見据えた、新型コロナウイルス感染症患者の入院入院・転院調整を目的とし、新型コロナウイルス感染症入院受入院・転院調整等、新型コロナウイルス感染症患者の入院受入院等を共有するシステムを運営する。	R5.4.1	R5.7.31	2,060	2,060	新型コロナウイルス感染症患者の入院調整に必要な病院内外の院状況をリアルタイムで共有することのできる県独自システムの運用数 4件	4件	4件	100%	○HOPE-Q (新型コロナ受入病院ネットワーク) 、 HOPE-S (緊急疾患ネットワーク) 、 HOPE-HD (血液透析ネットワーク) 、 HOPE-R (リハビリテーションネットワーク) の4つのシステムを運用し、新型コロナ陽性患者の入院・退院調整に活用した。	コロナ陽性患者受入医療機関や県、保健所、医師会等関係機関において、これまで電話やFAX、メールにより行なってきたコロナ陽性患者の入院状況などをリアルタイムに情報共有することが可能となり、入院・退院調整等の円滑化に大きく寄与した。	保健 医療政策課
54	単	新観光コンテンツ造成果業	コロナ禍における物価高騰等の影響を受ける観光事業者等を支援するため、新しくチラシレジン等の観光コンテンツやツアーや造成することで、アフターコロナにおける本県観光の活性化、高付加価値化を図る。	R5.5.16	R6.3.19	19,932	19,932	・新たな観光コンテンツを核としたツアーや造成 1本	1本	4本	400%	○各種ツアーや観光実績 ・磐梯リゾートアドベンチャー: 28名 ・磐梯スルガ湖アドベンチャーシップツアーアドベンチャー: 冬季のみ凍結せずアフター中止 ・グランヒーリツアーアンドフリーランツアーズ: デモキャラ参加者 3名 ・ヒロサワ・シティ隠岐展示特別公開 : 62名	○ナイトアドベンチャー: ヒロサワシティ、アイスクランチング等、地域資源を生かした新しい観光コンテンツを創出することができた。 ○ヒロサワ: 2023年3月に開業した新施設「ヒロサワ・シティ隠岐」においては、市場の反応を踏まえ、販路やPR方法など高価格帯のツアーや造成における課題の洗い出しを行なってきた。	営業 観光戦略課
55	単	いばらき農林水産物ブランド確立PR事業	イバラキング (メロン) 、恵水 (梨) 、栗、常陸牛 (牛肉) 、常陸の鰻 (豚肉) について、話題性のある取り組みを行い、メディア露出機会を増やすことにより、ブランドの確立につなげ、コロナ禍及び肥料・飼料等の価格高騰の影響を受ける生産者の所得安定・向上を図る。	R5.4.1	R6.3.31	30,994	30,994	重点5品目の販売金額: 169億円 (イバラキング: 578百万円、恵水: 77百万円、栗: 147百万円、常陸牛: 15,833百万円、常陸の鰻: 241百万円)	169億円	166億円	98%	【イバラキング】 HARAKI melon King&Queen SelectionのPR販売など 【恵水】 幻の恵水プロジェクトなど 【栗】 笠間・マロンコレクション2023など 【常陸牛】 常陸牛・常陸の鰻 茨城県ブランドPRイベント「常陸牛」「常陸の鰻」正しく説明大作戦など話題となり取組を実施	これらの取組により、テレビ14件、新聞28件、WEB497件の計539件、広告換算額589,854,612円の効果があり、重点5品目のブランド確立に寄与とともに、コロナ禍及び肥料・飼料等の価格高騰の影響を受ける生産者の所得安定・向上に寄与した。	営業 販売戦略課
56	単	茨城県テレビ広報事業	首都圏ネットのテレビ局において、県産品や観光情報等を紹介する広報番組の放送を行ない、アフターコロナにおける県産品の販促・観光誘客拡大を目的して、肥料・飼料等の価格高騰の影響を受ける生産者及び観光事業者への支援を図る。	R5.4.1	R6.3.31	121,638	121,638	紹介した県産品の放送後の売上を1.5倍にする。	売上1.5倍	売上1.47倍	98%	○県産品や観光情報等について茨城県テレビ広報番組「いばらき推し」を放送した。 ・放送回数 本編 (120秒) : 52回 ダイジェスト版 (30秒) : 156回	県内外への情報発信によるアフターコロナにおける県産品の販促・観光誘客拡大を通して、肥料・飼料等の価格高騰の影響を受ける生産者及び観光事業者への支援を図ることができた。	営業 営業企画課

実施計画No	区分	事業名	事業概要	事業始期	事業終期	事業実績								担当部署	
						総事業費(千円)	交付対象経費(千円)	成果目標	計画	実績	達成率	取組実績	取組の効果		
59	単	令和5年度茨城県産ほしいもプロモーション展開事業	ほしいも農家における肥料価格高騰などのコロナ禍からの経済回復を確実なものとするため、本県が選出組シェアNo.1を誇るほしいもについてのプロモーション活動を展開する。	R5. 9. 1	R6. 3. 31	22,000	22,000	PR動画の作成 2種類	動画2種類	2種類	100%	○本県産ほしいもPR動画の作成：2種類 ○「茨城県ほしいもアンバサダー」の創設 ○「ほしいもの日（1月10日）」の制定 メディア向けPRイベントを実施	○PR動画再生回数58万PVを記録 ○「ほしいもの日」PRイベントは広告換算額1億8千円以上	農林	産地振興課
60	単	県産シラス競争力強化対策事業	コロナ禍において原価価格等の物価高騰の影響を受けた、本県沿岸小型漁業者を支援するため、主力魚種であるシラスについて、高付加価値化に取り組むとともに特产品としての魅力をPRすることで、認知度の向上とともに消費拡大を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	9,906	9,906	産地認知度（首都圏）：5%→19%	19%	29%	152%	○県産シラスのトップブランド化を図るため、県独自の基準によるプレミアムな商品を開発する事業者を公募し、販売店及び消費者から好評を得ることで、高付加価値商品としての認知度向上につながった。 ○漁業者に対する指導助言の結果、県独自の基準を担保する適切な鮮度管理手法の普及啓発を行うことができた。	○県独自の基準によるプレミアムな商品の期間限定販売の結果、販売店及び消費者から好評を得ることができ、高付加価値商品としての認知度向上につながった。 ○漁業者に対する指導助言の結果、県独自の基準を担保する適切な鮮度管理手法の普及啓発を行うことができた。	農林	漁政課
61	単	県立学校先端技術活用教育推進事業	次の感染症危機への備えとして、コロナ禍における感染拡大防止のための休校措置の際に学習環境を確保するため、GIGAスクール構想に基づく一人一台端末の整備を実施する。	R5. 4. 1	R6. 2. 15	14,903	14,903	一人一台端末の整備 96台	96台	96台	100%	○県立中学校において一人一台端末を整備し、5学校に配備した。 ・一人一台端末 96台 ○県立高校において、住民税非課税に準ずる世帯の生徒471人に対して端末購入費一部を補助した。	○ICT環境を整備することで、生徒の学びの機会を保証することができるとともに、生徒一人一人の情報活用能力を高め、個別最適化された学びや遠隔教育の充実が図れた。 ○経済的困難を抱える世帯に対して、端末購入費の一部を補助し、教育の機会均等に寄与することができた。	教育	教育改革課
62	単	特別支援学校教育情報化推進事業	次の感染症危機への備えとして、コロナ禍における感染拡大防止のための休校措置の際に学習環境を確保するため、GIGAスクール構想に基づく一人一台端末の整備を実施する。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	4,829	4,829	一人一台端末の整備 369台	369台	369台	100%	○県立特別支援学校において一人一台端末等を整備し、23学校に配備した。 ・一人一台端末 369台 ・管理用コンピュータ 23台 ・光電球監視 47台	ICT環境を整備することで、生徒の学びの機会を保証することができるとともに、生徒一人一人の情報活用能力を高め、個別最適化された学びや遠隔教育の充実が図れた。	教育	教育改革課
63	重	土地改良区省エネルギー化促進事業	コロナ禍における物価高騰等の影響を受ける農業者の用水利用等に係る負担軽減のため、省エネルギー化取り組む県内土地改良区等に対して、農業水利施設の電気料金高騰分を支援する。	R6. 1. 4	R6. 3. 31	65,494	65,494	省エネルギー化に取り組む土地改良区（累計）165改良区	165改良区	107改良区	65%	土地改良区省エネルギー化促進計画を策定した土地改良区に芳じて、農業水利施設の電気料金高騰分の一部を補助した。	電気料金の急激な高騰への懸念緩和対策と、将来に向けた消費電力削減のために土地改良区が取組む省エネルギー化の促進対策を併せて実施し、土地改良区の経営体質強化が図ることができた。	農林	農村計画課
64	重	医療機関物価高騰対策支援事業（12月補正予算分）	コロナ禍において物価高により増大する医療機関等の負担を軽減し、健全な経営の維持を図るため、医療機関設置者等に対する支援を行った。	R6. 2. 1	R6. 3. 31	213,639	213,637	支援金の支給件数：6,234件	6,234件	818件	13%	医療機関等からの申請818件に対して支援金を支給した。 なお、省エネの取組に応じて補助率を区分した。	支援金を支給することで、物価高による医療機関等の負担を軽減し、健全な経営の維持を図ることができた。	保健	保健政策課
65	重	介護施設物価高騰対策支援事業（12月補正予算分）	コロナ禍においてエネルギー価格の高騰により増大する高齢者施設の負担を軽減し、健全な経営の維持を図るための支援を行った。	R6. 2. 1	R6. 3. 31	323,654	323,651	支援金を支給する施設数 高齢者施設：4,141カ所	4,141カ所	848カ所	20%	○光熱費及び食材料費の値上げの影響を受ける事業者に対して支援金を支給した。 ・交付実績施設数：848カ所 ・交付実績金額：320,861,000円	支援金の支給により、介護施設等の安定的なサービス提供に寄与した。	福祉	長寿福祉課
66	重	障害者施設物価高騰対策支援事業（12月補正予算分）	コロナ禍においてエネルギー価格の高騰により増大する障害者施設の負担を軽減し、健全な経営の維持を図るための支援を行った。	R6. 2. 1	R6. 3. 31	41,047	41,047	支援金を支給する施設数 障害者施設：3,529カ所	3,529カ所	708カ所	20%	申請のあった障害者施設708事業者に対し、支援金を支給した。	支援金を支給することで、エネルギー価格の高騰による医療機関等の負担を軽減し、健全な経営の維持を図ることができた。	福祉	障害福祉課
67	重	幼児教育・保育施設物価高騰対策支援事業（12月補正予算分）	コロナ禍においてエネルギー価格の高騰により増大する幼児教育・保育施設の負担を軽減し、健全な経営の維持を図るための支援を行った。	R6. 1. 24	R6. 3. 27	46,952	46,952	支援金を支給する施設数 幼児教育・保育施設：1,055施設	1,055施設	724施設	69%	○光熱費及び食材料費の値上げの影響を受ける事業者に対して支援金を支給した。 ・交付実績施設数：724施設 ・交付実績金額：46,952,000円	支援金の支給により、幼児教育・保育施設の安定的なサービス提供に寄与した。	福祉	子ども未来課
68	重	特別高圧受電施設等電気料金支援事業（12月補正予算分）	コロナ禍からの回復途上において電気料金が高騰しているため、電気料金の支援の件数外による特別高圧受電施設（高圧送電等の入居者等を含む）等に対して、電気料金の一部を支援を引き続き実施し、コロナ禍からの回復を支援する。	R6. 1. 30	R6. 3. 1	146,844	146,844	特別高圧で受電する中小企業等：約650事業者への電気料金の支援	約650事業者	18事業者	3%	工場などの直接受電事業者 18事業所 保険医療機関 3施設 計18事業所 に対し、2024年10月～12月分の電気使用量を算定して合計146,843,600円の支援金を支給を行った。 なお、本事業については、2024年4月～9月分の支援金を受給した直接受電事業者及び保険医療機関を対象に実施した。	国の電気料金支援の対象外である特別高圧契約で受電する中小企業等を支援することにより、電気料金高騰による影響を緩和することができた。	産業	中小企業課
69	重	いばらき業務改善奨励金事業	コロナ禍における物価高の影響により厳しい状況にある中小企業の生産性向上を図り、貸上げを促進する目的。	R6. 1. 1	R6. 3. 31	1,072	1,072	貸上げを行う中小企業・小規模事業者 40社	40社	22社	55%	○生産性向上を図り貸上げを行った中小企業に対し奨励金を受け付けたほか、事業の活用促進のためにアドバイザリーチームを派遣した。 ・申請件数：22件 ・貸出額：1,072万円 ※奨励金交付はR6年度予算で実施	コロナ禍における物価高の影響があるなかで、中小企業の生産性向上を図り、貸上げを促進することができた。	産業	労働政策課
70	重	飼料価格高騰緊急対策事業	配合飼料価格安定制度の積立金を支援することで、コロナ禍における飼料価格高騰による生産者負担を軽減する。	R5. 12. 26	R6. 3. 29	588,138	588,138	支援数量 984,730t	984,730t	980,231t	100%	配合飼料価格安定制度の生産者積立金に対する補助857万980,231t	○新型コロナウイルス感染症による消費減退で畜産物価格が低迷する畜産農家の影響が緩和された。 ○飼料価格高騰による生産者負担が軽減された。	農林	畜産課
71	重	省力化・グリーン化同時実現型資材活用推進事業（12月補正予算分）	コロナ禍における原価価格・物価高騰等に対応し、プラスチックマルチから生分解性マルチへ転換することで、省力化・生産性の向上により所得を増加させ、かつ環境にやさしい農業への構造改革への取組を支援する。	R6. 1. 23	R6. 3. 29	4,478	4,477	生分解性マルチの導入面積 現状の120%増			67%	○認定農業者等に対し、生分解性マルチの導入を支援した。 ・認定農業者数：141件、補助額：4,271千円 ・補助内容：生分解性マルチ1haあたり15円を支援 ※該当事業経費の一部に本交付金を活用	かんしょやトウモロコシ等の露地野菜栽培、約400haにおいて慣行マルチから生分解性マルチへ転換が図られた。	農林	農業技術課
72	補	新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金	（自立相談支援機関等の強化事業）県の4か所の自立相談支援機関に事務補助員を追加配置し、新型コロナウイルス感染症対応として、総合支援資金の特例貸付や住居確保交付金の交付業務に係る自立相談支援機関の業務増加に対応できる体制を整備する。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	19,113	5,217	令和5年度生活困窮者自立相談支援受付に対する1日あたりの処理目標件数 5.8件	5.8件	1.0件	17%	○自立相談支援事業新規相談受付件数 4セントラル：166件・年間 (R4新規相談件数：305件)	新型コロナウイルス感染症に囲む特例貸付の受付が終了したこともあり、新規相談受付件数はR4年度より減少したが、生活保護補助金の増加による体制強化をすることにより、支援体制の充実が図られた。	福祉	人材指導課

実施計画No	区分	事業名	事業概要	事業始期	事業終期	事業実績							担当部署		
						総事業費(千円)	交付対象経費(千円)	成果目標	計画	実績	達成率	取組実績	取組の効果		
83	単	成長産業振興プロジェクト事業	本県産業の活性化に向けて、今後の成長を見込まれる「環境・エネルギー」や「医療・介護・健康」分野等の新製品開発や新たなビジネス展開等を支援する。これにより、物価高騰や新型コロナウイルスの影響を受けた県内企業の貨上げや、資金繰りの改善を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	29,006	29,006	・試作・商品化に向けたマッチング会等の開催：3回 ・成長分野に関連する情報等を提供するセミナー等の開催：4回 ・大規模展示会等への出展支援：2回 ・試作・商品化：10件	3回 4回 2回 10件	3回 4回 2回 14件	100% 100% 100% 140%	○試作・商品化に向けたマッチング会を、3回開催した。 ○成長分野に関連するセミナー等を、4回開催した。 ○大規模展示会への出展支援を、2回行った。 ○支給実績数：12件 ○上記取り組み等により、試作・商品化14件の成果に繋がった。	マッチング会やセミナー等の開催、展示会への出展支援等の実績により、県内企業の新製品開発や新たなビジネス展開を支援し、本県産業の活性化に寄与することができた。	農業	技術革新課
84	単	霞ヶ浦北浦産シラウオトップブランド化事業	コロナ禍において原油価格等の物価高騰の影響を受けた、霞ヶ浦北浦の魚粉を支援するため、主力魚種であるシラウオについて高付加価値化に取り組み、漁業者の所得安定・向上を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	4,996	4,996	商品取り扱い店舗数：1店舗	1店舗	3店舗	300%	県と漁協が共同開発した品質保持技術を使って生産したシラウオについて、成分や食味を客観的に調査・分析するとともに、和洋中の飲食店にテストマーケティングを行った。	○シラウオのトップブランド化に向けた差別化のためのアピールポイントが明確にできた。 ○スマートカーティング実験店舗のうち3者から購入希望があり、従来よりも高価値での取引につながった。	農林	漁政課
85	単	未利用魚有効活用促進事業	コロナ禍において原油価格等の物価高騰の影響を受けた、霞ヶ浦北浦の魚粉を支援するため、霞ヶ浦北浦で漁獲後、食品として利用されず施却処分されているハクレン等の未利用魚を飼料原料や機能性成分の原として活用するための試験等の実施する。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	10,791	10,791	未利用魚の魚粉または飼料を取扱うメーカー等の数：1者	1者	-	0%	○ハクレン等の未利用魚について、魚粉の試作を行った。 ○試作された魚粉について、成分分析を行うとともに飼料としての実証試験を行った。	○製造した魚粉については、肥料や養成用飼料として活用できる事が示された。 ○試作の製造方法ではコスト面に課題があることが明らかとなつたことから、コスト圧縮のための検討が開始された。	農林	漁政課
86	単	いばらき農林水産物ブランド確立販路開拓事業	イバタキング（メロン）、恵水（梨）、栗、常陸牛（牛肉）、常陸の舞（豚肉）について、ブランドイメージを向上させることでできる高級店での取扱いを推進することにより、ブランドの確立につけて、コロナ禍及び肥料、飼料等の価格高騰の影響を受ける生産者の所得安定・向上を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	33,402	33,402	重点5品目の販売金額：169億円 (イバタキング：575百万円、恵水：77百万円、栗：147百万円、常陸牛：15,833百万円、常陸の舞：241百万円)	169億円	166億円	98%	重点5品目のサンプル・販促商品の送付を含めたフェア開催等を通じて、高級レストランや高級東京店、百貨店等での取扱い拡大を推進。	新たに43店舗での取扱いが進み、重点5品目のブランド化を進めた。	畜産	農産物販売課
87	単	販路開拓チャレンジ事業	本県農産物及び農産加工物の販路開拓の支援を行い、生産者や事業者の販売の強化を図り、コロナ禍及び肥料、飼料等の価格高騰の影響を受ける生産者の所得安定・向上を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	20,567	20,567	食彩カタログの改編 商談会の実施1回	1回	3回	300%	○レストランや卸業者等と県内生産者等とのマッチングを促進 ○商談会の開催：3回 ○食彩カタログの改編	商談会の開催等による本県農産物及び農産加工品の販路開拓の支援を行った結果、18件で商談が成立し、県内生産者等の販路拡大を図ることが出来た。	畜産	農産物販売課
88	重	茨城県立医療大学付属病院物病院対策事業（県立医療大学付属病院特別会計へ繰出）	コロナ禍において物価高騰により増大する医療機関等の負担を軽減し、健全経営の推進を図る。 ※ N-0.64事業の受け対象外施設	R5. 4. 1	R6. 3. 31	768	768	食材料費の高騰分に活用による、入院環境の維持・安定的な病院運営：1カ所	1カ所	1カ所	100%	食材料費高騰分として付属病院特別会計に繰出金を支出した。	交付金充当により、入院環境の維持と病院運営の安定化が図れた。	保健	保健政策課
89	単	つくば霞ヶ浦りんりんロード整備事業	コロナ禍においてサイクリングに需要が高まっていることから、サイクリングを核に筑波山や霞ヶ浦など豊かな自然や歴史・文化遺産などの地域資源を結び付け、誰もが安全・快適なサイクリングを楽しむため、出来未だ環境整備を行ない、サイクリング人口の拡大による地域振興、観光需要の喚起を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	19,392	19,392	つくば霞ヶ浦りんりんロード利用者：135,000人	135,000人	125,000人	93%	自転車道リニューアル 注意喚起看板設置工事 L=300m N=1式	安全で快適な歩行環境が整備されたことにより、利用者数が2倍のとおり増加された。 R1年度：93,000人 R2年度：105,000人（前年度比+12.8%） R3年度：110,000人（前年度比+5.0%） R4年度：120,000人（前年度比+9.1%） R5年度：125,000人（前年度比+4.1%） つくば霞ヶ浦りんりんロードにおける交通事故件数は、R4年度からR5年度にかけて25%削減することができた。	土木	道路建設課
90	単	高品質常陸牛生産対策事業	県銘柄畜産物である「常陸牛」の安定生産体制を構築することで、コロナ禍における豚価格高騰等により経営に打撃を受けている生産者の所得の向上を図る。	R5. 12	R6. 3. 31	35,429	26,757	脂肪の質に優れた雌牛の保留支援頭数：110頭	110頭	104頭	95%	県内和牛繁殖農家52戸に対し、脂肪の質に優れた雌牛104頭の保留支援を実施した。	脂肪の質に優れた牛が県内に保留下ることにより、「常陸牛」の安定生産体制が構築され、コロナ禍による消費減退が畜産物価格が低迷する中、生産者の所得の向上につながった。	農林	畜産課
91	単	銘柄畜産物ブランド支援事業	本県銘柄畜産物の販路開拓やPRなどの支援を行うことで、ブランド力の向上を図り、コロナ禍における物価高騰により経営に打撃を受けている生産者の所得向上を図る。	R5. 4. 3	R6. 3. 29	36,471	27,281	常陸牛集荷頭数：10,000頭 ローズボーグ生産頭数：36,000頭 奥久慈しやも生産羽数：47,000羽	10,000頭 36,000頭 47,000羽	11,101頭 34,629頭 39,741頭	111% 96% 85%	○本県銘柄畜産物の販路拡大やPR等の取組への支援 ○茨城牛常陸牛のブランド化検討委員会を3回開催し、新基準等のブランディング戦略を策定し、新「常陸牛」のメディア向け発表会を開催するとともに、県内外8店舗のメニューを開発した。 ○県内の銘柄牛の販路拡大のため、PR活動を活用したWEB告知等によるPR活動やツイッターアカウントを実施したほか、PR調査の結果から上昇し、県産農家の知名度向上に寄与した。 ○これらの効果により、コロナ禍による消費減退で畜産物価格が低迷する畜産農家への影響が緩和された。	○本県銘柄畜産物の開催したイベントの開催やPR活動を支援したことで、販路拡大や認知度向上に貢献した。 ○常陸牛は実績者から高い評価を獲得することも高く、取扱いされるなど生産者の所得向上に寄与した。また、常陸牛牛の発表会が多くのメディアで取り上げられ、PR活動が図られたことから、メニューのPR活動が開催された。 ○県内の銘柄牛の販路拡大のため、PR活動を活用したWEB告知等によるPR活動やツイッターアカウントを実施したほか、PR調査の結果から上昇し、県産農家の知名度向上に寄与した。 ○これらの効果により、コロナ禍による消費減退で畜産物価格が低迷する畜産農家への影響が緩和された。	農林	畜産課
92	単	1,000円レント・キーパー事業	コロナ禍において物価高騰の影響を受けた観光事業者等への支援のため、レンタカー利用料金助成による県内宿泊の促進及び航空需要の喚起を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	19,440	13,617	レンタカー事業者に対する助成件数 3,300台 ※R1実績：3,266台	3,300台	4,251台	129%	○コロナ禍において物価高騰を受けた交通事業者に対する助成金を交付した。 ・交付実績件数：4,251件 ・交付実績金額（事務手数料含）：19,440,221円	助成金の交付により、物価高騰の影響を受けた事業者を支援し、県内宿泊の促進に寄与した。	畜産	空港対策課
93	単	乗合タクシーシステム実証運行事業	コロナ禍において物価高騰の影響を受けた観光事業者等への支援のため、乗合タクシーシステム運賃助成による航空需要の喚起及び二次交通の利用促進を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	4,466	3,295	タクシー事業者に対する助成件数 1,200台 ※R1実績：1,189台	1,200台	1,088台	91%	○コロナ禍において物価高騰を受けた交通事業者に対する助成金を交付した。 ・交付実績件数：1,088件 ・交付実績金額（事務手数料含）：4,466,470円	助成金の交付により、物価高騰の影響を受けた事業者を支援し、二次交通の促進に寄与した。	畜産	空港対策課
94	単	個人旅行者向け空港アクセスバス助成事業	コロナ禍において物価高騰の影響を受けた観光事業者等を支援するため、アクセスバス運賃助成による県内宿泊の促進及び航空需要の喚起を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	3,897	2,850	バス事業者に対する助成件数 1,000件 ※R4実績：979件	1,000件	3,634件	363%	○コロナ禍において物価高騰を受けた交通事業者に対する助成金を交付した。 ・交付実績件数：3,634件 ・交付実績金額：3,896,780円	助成金の交付により、物価高騰の影響を受けた事業者を支援し、県内宿泊の促進に寄与した。	畜産	空港対策課
95	単	DXによる業務改革推進事業	ウイズコロナ下において、デジタル技術の活用による業務の効率化に取り組み、新型コロナウイルス感染症の今後の感染拡大への備えとして、定常業務を自動化することで職員が勤怠しなくても業務を継続できるようになり、人員体制の確保等につなげたりできる環境を整備する。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	70,430	22,382	新たなRPAの開発：20業務	20業務	25業務	125%	○委託により会計年度任用職員の雇用情報入力など3業務に専属 ○内製化により小中学校の旅費支給データのとりまとめ業務など22業務に導入	RPAの導入により、年間約3,600時間（見込み）の業務時間の削減効果が得られる想定であり、新型コロナウイルス感染症の今後の感染拡大への備えとしての環境が整備された。	総務	行政経営課

実施 計画 No	区分	事業名	事業概要	事業 始期	事業 終期	事業実績							担当部署		
						総事業費 (千円)	交付対象経費 (千円)	成果目標	計画	実績	達成率	取組実績			
96	単	県情報基盤強化事業	コロナ禍以前に整備した、自宅や出張先からも業務可能なテレワークシステム・BYODシステムの機器保守期限満了に伴う更新、及びモバイルワーク用備品端末の経年劣化に伴う機器更新により、コロナウイルス感染拡大時においても業務を継続する体制を維持する。	R5. 7. 4	R6. 3. 29	39,567	39,567	テレワーク環境・BYOD環境・端末の更新による、コロナウイルス感染拡大時における業務継続できる環境の維持	-	-	-	○テレワークシステム・BYODシステムの機器更新を行った。 ○モバイルワーク用備品端末70台を購入し、府内各部局へ配備した。	コロナ禍以前に整備した、自宅や出張先からも業務可能なシステム機器及び端末更新により、感染拡大時においても業務を継続できる体制が維持できた。	政策	情報システム課
97	単	県立病院光熱費高騰対策事業（県立病院事業会計繰出）	コロナ禍における原油価格等高騰の影響を受ける病院施設について、本交付金を活用することにより、院内施設環境の維持、安定的な病院運営を図る。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	52,036	52,036	3施設への光熱費の高騰分に活用による、院内施設環境の維持、安定的な病院運営	3施設	3施設	100%	対象：茨城県立中央病院、茨城県立こころの医療センター、茨城県立こども病院	コロナ禍における原油価格等高騰の影響を受ける病院施設について、本交付金を活用することにより、院内施設環境の維持、安定的な病院運営を図ることができた。	保健	医療政策課
98	単	あすなろの郷再編整備関連事業	あすなろの郷では、築年数が50年を経過して施設の老朽化が進行していることから、多床室を個室化するなど新型コロナウイルス感染症対策に対応できる施設を整備する。	R6. 6. 23	R6. 3. 31	1,044,506	1,044,506	感染対策に対応できる施設の整備：1施設	1施設	1施設	100%	あすなろの郷において、多床室を個室化に整備した。	コロナ禍における感染症対策の重要性が高まる県有施設（直接住民の用に供する施設）に本交付金を活用することにより、多床室を個室化するなど新型コロナ感染症対策に対応できる施設の整備が進んだ。	福祉	障害福祉課
99	単	勤務時間管理機能整備事業	ウィズコロナ下において、庁舎内や通勤時の混雑を避け、今後の新型コロナウイルス感染症拡大時にも業務継続が可能となるよう、実現するため、フレックスタイム制など職員の柔軟な勤務を実現するため、既存の勤怠管理システムを改修するなど、職員の勤務状況を一元化・一覧化するクラウド型システムを新たに導入する。	R5. 9. 5	R6. 3. 31	72,150	72,150	職員約6,500人の適切な勤務管理	-	-	-	○フレックスタイム制導入に係る既存の勤怠管理システムの改修を行った。 ○テレワークやフレックスタイム制など職員の多様な働き方に対応させるため、職員の勤務状況を一元化・一覧化するクラウド型システムを新たに導入した。	○テレワークやフレックスタイムなどの職員の勤務状況を一元的に管理できるようになった。 ○職員の勤務状況が一元化されることで管理職員による勤務管理の負担が軽減された。	総務	行政経営課
3	検	検査拠点整備事業	新型コロナウイルス感染症の感染収束が見込みない中、感染拡大時などに積極的な検査を実施できる体制を整備し、引き続き、感染拡大の防止に努める。	R5. 4. 1	R6. 3. 31	28,810	28,810	検査拠点数の拡充：385拠点（R4. 3. 31時点）→485拠点	485	487	100%	○新型コロナウイルス感染症の検査拠点に対し、補助金を交付した。 ・検査拠点数：487拠点 ・交付実績金額：28,810千円	県内各地に薬局を中心とした検査拠点を整備することで、感染拡大の防止を図った。	保健	疾病対策課

No：実施計画に記載しているナンバー（実施計画の様式上、本県はNo.7からとなる。また、検査枠は実施計画が別途設けられており、No.3となる。）

単：地方単独分、補：国庫補助事業分、重：電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金、検：検査枠